

○循環型エネルギー社会研究部会

編集後記

私たち循環型エネルギー社会研究部会では、循環型エネルギー(太陽光、太陽熱、小水力、風力、バイオマス等)を宮津でどう使っていくかについての研究、実践に取り組んでいます。

26年11月から稼動を始めた市民ファンド「宮津未来の環共同発電所1号機」(宮村)による太陽光発電設備は、順調に発電し、1年間の平均発電量は、パネル1kW当たり1,011kWh(一般には1,000kWh程度が平均)となっています。

おもじろ実験教室」を開催しました。22年3月に一口ハートの開催することとし、22年度は、この太陽光以外の再生可能エネルギーの可能性も確認する意味で、小水力と木質バイオマスについて調査、研究しました。

夜に発電しない太陽光とは異なり、安定した発電が可能な水力利用には大きな力があります。私たちは、小水力発電設備の概要について5月に学習会を開催し、9月には府内で先進的に小水力発電に取り組んでおられる地域に視察に伺い、小水力発電についての一定の知識をもつことができました。小水力発電では、市民ファンドのような方向付けをすることが規模的にも採算上の問題も多く、この課題をクリアーする必要があることが分かりました。ただ、やり方を更に検討すれば可能性もあり、今後、その可能性を追求していきたいと考えています。皆さんの地域でも可能性のあるそろな河川や水路がありましたら、ぜひ、一緒に検討しませんか。

一方、バイオマスについては、宮津市で8割の面積を占める森林資源を有効活用する意味で、薪ストーブの普及を検討していくまです。近頃、薪ストーブを設置される方が少しずつ増えているようですが、実際、この地域

また、新年度、新学期のスタートです。今年はどんな一年になるでしょうか？

先日、原発災害時の避難計画の説明会を聞きに行きました。風向きで避難する方向が二通りあり、○○地区の住民は△△地区へ避難するところが細かく記載され、自分が避難先もよくわかりました。でも、避難先がわかれればそれでいいのか？それだけでは済まされない背景が想像されました。警戒レベルが最高になつたとき、避難計画は移住計画に変わると思いました。

福島が解決していない限り、きちんと整つた避難計画はできないと思います。そんな途方もない問題に何年もかけて計画書を作成され、市や国の方は大変なご苦労だと思います。そしてその避難所を何億円もかけて建てるような計画があるとか……いつたいどれだけ税金を使い、人の労力を使い原発を進めるのでしょうか？

少々壊れても避難や移住しなくてよい自然エネルギーに代わっていくこと、税金が無駄に使われないことを願つてやみません。

# うしん 信 やづ やづ わ 環



たちのためはできることがあります。田舎暮らしの現場で、ゆっくりと楽しみながら、語り、学び、考え、行動に繋げるきっかけづくりを目的に開催されました。

今回は、国各地の企業経営者の方々が、エネルギー問題について考え、具体的な実践活動をされている一般社団法人エネルギーから経済を考える経営者ネットワーク会議の皆さんと共に実行委員会を結成し、開催。当時は、金丸弘美氏、金子勝氏、藻谷浩介氏、にお越しいた

参加した人それぞれに新し  
い発見など得るものがあつた  
「アースガーデンみやづ201  
5」。皆さん一人ひとりの気付  
きが実際の行動に繋がり、「低  
炭素型」で心の豊かさを実感で  
きるまち、「住んでよし」のま  
ち・宮津」の実現に近づくもの  
と信じています。

**アースガーデンみやざき**

**を開催しました。**

また、新年度、新学期のスタートです。今年はどんな一年になるでしょうか…

〔編集・発行〕  
やづ環の地域づくり推進ネットワーク  
事務局：宮津市自立循環型経済社会推進室環境政策係

626-8501 京都府宮津市字柳縄手345-1 tel 0772-45-1609 fax.0772-22-8480

## Eライフスタイル推進部会

### 超高齢社会と温暖化問題

一般に65歳以上の人口割合が14%を超えると「高齢社会」と呼ぶそうです。いま日本はこの値が25%を超え、超高齢社会にあります。国の予算を見ても、高齢社会と関連性の強い「社会保障費」(年金・医療・介護・福祉費など)と、借金返済用の「国債費」だけで歳出の6割近くを占め、税収のほとんどを使い切り、次世代に大きな負担をかけています。

私たちEライフスタイル推進部会は、「ピンと活き生き宮津ライフ」をモットーに、第1弾企画として高齢者パワーを活かした宮津らしいライフスタイルを考えて、提案していきます。

「住んでよしのまち・宮津」を考える市民組織  
「みやづ環の地域づくり推進ネットワーク」企画事業  
“ピンと活き生き”宮津ライフ

●高(光)齢者の皆さんのチャレンジをお待ちしています！

私たちの暮らしは、戦後の化石資源の大量消費による経済成長の恩恵を受け、大変便利になった一方で、環境破壊が進み、地球温暖化などによって持続可能な暮らし方が危ぶまれる状況になっています。  
また、宮津市の高齢化率は、既に約38%に達し、あと数年で人口は更に2千人減少し、現役時代より子どもやお年寄りの方が多くなるなど、社会保障費が急増することが予想され、大きな社会問題に直面します。  
こんなときだからこそ、豊かな人生経験に裏付けられた技術・知識・知恵を最大限に発揮できる高齢者の皆さんに先頭に立っていただき、環境にやさしく、健康で明るい、ピンピン元気な暮らし方を孫の世代に残してほしい…  
そんな思いから、笑顔の絶えない自立した暮らしを目指した、このポイント制度をはじめました。  
好評につき、内容を新たに第4回を開催します。ぜひ、一緒に楽しく取り組んでみませんか。

●目指すべき4つの暮らし方

- ① 自助・共助で、ピンと元気に長生きする暮らし方
- ② 旬の地元野菜を多く食べ、適度な運動による健康的な暮らし方
- ③ エネルギー資源を大切にした、持続可能な「少エネ」「少資源」の暮らし方
- ④ 地元を元気に明るくする暮らし方

●参加方法

裏面の申込書に自己申告で活動項目の実績等を記入し、必要な添付書類と一緒に期限までに提出してください。抽選で50名様に地元産品、地元飲食店のお食事券等を贈呈します。  
★ピンとポイント：ポイントの名称で、健闘長寿を意味する「ピンポンコロ」という言葉に宮津節をかけて「ピンとポイント」とし、10点と10点で1回抽選できます。  
★活動期間：第4回目 平成28年1月1日から3月31日間、※途中からの参加も可  
★申込者：宮津市内にお住まいの方で、平成28年1月1日時点でお満65歳以上の方。ただし、当選時に氏名の公表に同意いただける方へ限ります。取得した個人情報は、宮津市個人情報保護条例に準じて適正に取り扱います。  
★申込期間：平成28年4月1日から4月15日まで(当日消印有効)  
★申込方法：直接持参(市役所・地域連絡所)、郵送、FAX、Eメール  
★抽選結果：当選者ご本人様にご連絡します。また、抽選後、当選情報や協賛情報を公表します。  
※本事業の販売品をご提供いただける協賛企業を募集しています。詳しい直接事務局までお問い合わせください。

申込・問合せ先：みやづ環の地域づくり推進ネットワーク事務局  
(宮津市自立循環型経済社会推進室環境政策係内)  
〒626-8501 宮津市宇柳鷺手345-1  
TEL:45-1609 FAX:22-8480 E-mail:kankyouseisaku@city.miyazu.kyoto.jp

一方、京都議定書(COP21)に代わる新たな温暖化対策が昨年、196の国と地域の全会一致により採択されました(パリ協定)。そして産業革命前からの気温の上昇を「2℃よりも低く抑える」という目標と、「1・5℃未満に抑える努力をする」ことを決めました。

た。最近の世界の異常気象は温暖化の影響が大きいとされ、気温を出来るだけ低く抑え込む必要がありますが、いまの世界のエネルギー消費動向からすると、目標実現には相当に厳しいものがあります。

### ○ピンと活き生き宮津ライフ

Eライフ推進部会では、一昨年の8月から“ピンと活き生き”宮津ライフをスタートさせ、いま第4回目の取り組みを行っています。65歳以上の高齢者を対象に、①自助・共助で、ピンと元気に長生きする暮らし方、②旬の地元野菜を多く食べ、適度な運動による健

康的な暮らし方、③エネルギー資源を大切にした、持続可能な「少エネ」「少資源」の暮らし方、④地元を元気に明るくする暮らし方の4つの暮らし方を目指しています。前述の超高齢社会と温暖化問題を考えると、豊かな人生経験を持つ高齢者こそ先頭に立ち、健康で明るい、環境に優しい暮らし方を、次世代にぜひ示してほしいと願うからです。“ピンと活き生き”宮津ライフでは、日常の生活が4つの暮らし方に合致しているか、チェックして頂きますが、なぜそうした生活が必要なのか、それが分かる日めくりカレンダーを作成中で、第4回目の参加者全員に配布する予定です。気楽に参加し、次世代に負担をかけない有意義な人生を、共に考えていきましょう。



私たち環境学習・環境情報発信部会では、環境学習や環境に関するセミナーや普及活動などの企画実践を行うことで、様々な人や団体を結び付け、「住んでよし」のまち・宮津の実現に向けた活動の環を広げていきます。

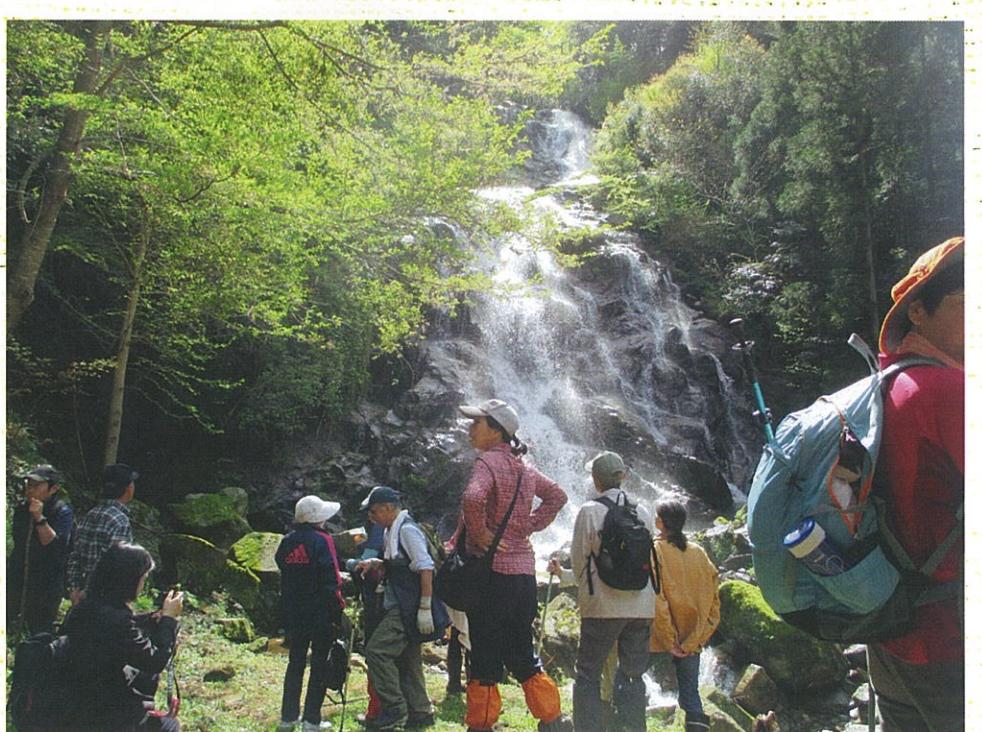
私たちが住む宮津市はみなさまご存じのとおり、海、里、山の自然豊かなところです。海では、日本一と言われるトリガ、イワガキ、アサリ、グジ、サワラなどが獲れ、里では、食味ランクイン得Aのコシヒカリのお米、小菊などの花、ヤマノイモ、果樹ではブドウのワイナリー、みかんの林や祇園祭りに使われるチマキザサが群生しています。私たちは、今年度「自然との共生」をテーマに一人一人が自分たちの暮らしを支える自然の大切さを再認識し、“人と自然の上手い付き合い方”を考え機会として「彼の山めぐり」を再認識し、“人と自然の大

自然の上手い付き合い方”を考へる機会として「彼の山めぐり」を再認識し、“人と自然の大

自然の上手い付き合い方”を考へる機会として「彼の山めぐり」を再認識し、“人と自然の大

自然の上手い付き合い方”を考へる機会として「彼の山めぐり」を再認識し、“人と自然の大

自然の上手い付き合い方”を考へる機会として「彼の山めぐり」を再認識し、“人と自然の大



## 環境学習・環境情報発信部会



## お知らせ information

### ○会員を募集しています。

環境に関心のある方、これからまちづくりについて何かしてみたい方、私たちと一緒に「低炭素型で心の豊かさを実感できるまち・住んでよし」のまち・宮津の実現に向けて活動しませんか。みやづ環の地域づくり推進ネットワークでは、個人、事業者、団体を問わず、随時会員を募集しています。興味を持たれた方は、事務局までご連絡ください。

### ○ご意見、ご感想をお寄せください。

本通信をご覧になった感想やネットワークの取組についてのご意見を事務局までお寄せください。